

# 自分らしく ともに 生きる ために

【めざす生徒像】 学び続け、問い続け、心を耕し続ける生徒

## 2. 学校経営の基本構想

課題解決力とコミュニケーション力を育み、自らの未来を創造する生徒とその集団を育てる。

変化の激しい21世紀社会において、一人ひとりの個性を伸長する学習を展開するとともに、未来社会の一員として調和のとれた豊かな感性を磨き、朱雀中学校の伝統を大切に、生徒一人ひとりを大切にしたていねいな指導をねばり強く行う。また、豊かな人間関係を築きながら、自分らしい生き方を探究し、様々な社会的変化を乗り越えていくための力を育むため、組織的・計画的な教育活動を実践する。さらに、これからの社会の予測不能な事態、不確実性の高い未来へ向けて、前例に捉われない、固定観念や既成概念の問い直しから生まれる「対応力・適応力」が求められることを意識する。教職員の心理的安全性を高め、安心して職務が行えるような環境を築き上げる。

平成28年度より継続して取組を進めている「よんきゅう絆プロジェクト」（4中9小小中一貫教育）では、児童生徒に身に付けたい資質・能力を「課題解決力・コミュニケーション力」としており、その成果をあげている。さらに、小中一貫教育目標の“めざすべき生徒像”「未来を拓きしなやかに生きる子どもの育成」につなげるためにも、この資質・能力を育むことを目標として取り組む。ここでいう「コミュニケーション力」とは、課題を解決するために、自分の意見を伝え、他者の考えを聞き話し合いのできる力である。進路保障を鑑み、生徒の学力の向上はもちろんであるが、「道徳の時間」を充実させ、思いやりの心を持ち、生徒が生徒を律することのできる集団の育成を図っていく。さらには、生徒会を中心に自治活動が行える集団の育成をめざし、教員が生徒とともに「朱雀愛」を育てることを大切に考える。個々の生徒が抱えるさまざまな課題解決のために、教員一人ひとりが「チーム朱雀」の一員としての自覚を持ち、情報共有をしつつ、「チーム」として対応していくことを目指す。

## 3. 具体的な実践

- ① 自分らしくともに生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える活動
  - ・すべての教育活動において、生徒一人ひとりを大切に、自己実現を支える。そのために、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成を意識する。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」をめざし、授業改善と授業づくり
  - ・「よんきゅう9年間の『学び』」を踏まえ、全ての教育活動の基本となる「授業」を構築する。
  - ・教科会や研究授業を軸に授業の工夫を検討し、学習改善・授業改善を図る。
  - ・一人一台端末の効果的な活用を通して、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- ③ 他者との関わりを大切に、正しく判断し行動できる生徒の育成
  - ・「よんきゅう9年間の『育ち』」を踏まえた生徒指導を実践する。
  - ・自律した生徒集団を育成するとともに、「自ら学ぶ力」「自ら律する力」を高める。
  - ・場と状況に応じた適切な意思決定を伴った行動ができるように意識改革を図る。
- ④ 「一人ひとりを大切にすること」の共通理解と実践
  - ・3年間を見通した人権学習を構築し、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」を踏まえ、互いに尊重し合い、ともに助け合う態度を育てるために、生徒の人権意識の醸成と思いやりの心を育てる。
  - ・「道徳の時間」を充実させ、「規範意識」を醸成するとともに「心」を育てる。
- ⑤ 教育活動すべてにおいて「支える」を基本とする生徒指導の実践
  - ・情報を共有して素早い対応を心掛け、「チーム」としての生徒指導を行う。
  - ・生徒指導の3機能を意識した指導を実践し、自己指導能力の形成に努める。
  - ・生徒の「多様性を寛容する力」の向上を、教育活動のすべてにおいて意識し、いじめにおいても積極的に認知するとともに、発生させない、許さない指導の徹底を図る。
- ⑥ 生徒、教職員の「ウェルビーイング」を目指す取り組みの実践
  - 心理的安全性（心の安心）を意識した教職員や生徒集団を築く。心を育むことが「守られている、包み込まれているという感覚」を創り上げる。そのためには、教科指導、総合的な学習の時間、道徳のなかで実践していく。